

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-50

部門名：

カリキュラム・マネジメント実践部門

エントリー名：

京都市立開晴小中学校 今河慶昭
平成30年度第2回次世代リーダー育成研修

活動名：

児童生徒の学習習慣の確立
～スケジュール管理能力の育成～

解決すべき課題：

本校は京都市東山区にある施設一体型小中一貫校である。世界遺産である清水寺をはじめ多くの寺社仏閣が校区にあることや、京都市でも有数の繁華街である祇園を校区に含むことから年間を通して多くの観光客が訪れる地域である。H29年度の学校評価の児童生徒アンケートを見ると、7年生までは計画的に家庭学習に取り組むことができているが、8から9年生となるにつれて徐々に家庭学習が計画的にできていない現状が見て取れる。さらにH29年度の全国学力学習状況調査の生徒質問紙を見ると、放課後の9年生のスマホ使用時間は、1日3時間以上が約30%（本校の6年生は約8%、9年生の全国平均約18%）である

9年

普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

□1. 4時間以上
□3. 2時間以上、3時間より少ない
□5. 30分以上、1時間より少ない
□7. 携帯電話やスマートフォンは使わない

□2. 3時間以上、4時間より少ない
□4. 1時間以上、2時間より少ない
□6. 15分以上、30分より少ない
□8. 15分以下

スマホ3時間以上
全国平均18%に比べ約30%!

6年生約8%⇒9年生約30%

全国学力調査生徒質問紙 H26年～29年度

児童生徒 計画をたてた家庭学習 実現度 H29後期学校評価より

5年生

6年生

7年生

8年生

9年生

よくできている

大体できている

あまりできていない

できていない

ことがわかる。テレビやゲームの時間はそのままに、加えて8、9年生となりスマホの時間が増えていることがわかる。時間があれば「とりあえずスマホでゲーム」という状況と予想できる。この現状では家庭学習の時間が十分に取れず、学力を向上させることが困難であるといえる。そこで第2回次世代リーダー育成研修「学校組織マネジメント」から学んだことを生かし取組をスタートさせた。

目標・方針：

子ども達の多くが携帯電話やスマートフォンを手にする7、8年生までに「とりあえずスマホでゲーム」ではなく子ども達自身のスケジュール管理能力を向上させるため、以下の⑤点に取り組む。

① 7～9年生には1人1冊、ファイル型の「スケジュール帳」を持たせ、時間割や持ち物、提出物、宿題、放課後の時間の使い方などを生徒自身でカリキュラム・マネジメントさせる。

② 担任は毎日班ごとに(5～6名)スケジュール帳をチェックし、宿題の提出状況や家庭学習の時間等について適切にアドバイスを行う。

③ 7年生になるまでの1～6年生は1週間の時間割が書かれた「おたより帳」を段階的に工夫する。

④ 学期末ごとに児童生徒に「おたより帳」や「スケジュール帳」に関するアンケートを実施する。

⑤ ④を分析し、長期休み中に校内研修を行うことでPDCAサイクルを回す。

以上のことを研究主任や教務主任、1～9年生の各学年主任と連携し取組を進める。

子ども達のスケジュール管理能力の向上による学習習慣の確立

スケジュール帳による自己管理

担任による適切な

1～9年生までの体系的な取組

児童生徒の評価アンケートを実施

校内研修によるPDCA

活動内容：

① 児童生徒は朝学活で「おたより帳」「スケジュール帳」を机の上に出して、昨日の家庭学習をふりかえる。また提出物や今日の時間割、一週間の見通しを確認する。(教務主任と連携し、朝学活を10分間とれるように校時表を変更)終学活でも机の上にだし、今日の宿題や明日の持ち物、提出物、帰ってからの予定を書き込む。

② 担任の先生は毎日、班ごとに(5～6名ずつ)回収し、児童生徒のスケジュール管理能力を見とる。必要に応じてスケジュール帳の効果的な活用方法や時間の使い方などのアドバイスを行う。

③ 1～6年生の各学年教員は一週間の時間割が書かれた「おたより帳」を工夫する。1・2年生は毎日の宿題を自分で見て確認できるものに、3・4年生からは毎日の宿題を「自分で」おたより帳に書き込めるように、5・6年生は放課後の予定やテストの時間割を見て「自主学习」の欄に自分で考えて学習計画を立てられるようにする。

(研究主任や各学年主任と連携)

④ 7～9年生は2・3週間先の見通しが持てるように予定表を配布する。

⑤ ③④ともに児童・生徒の実態に応じて取組をマイナーチェンジできるように、予定表は週ごとにファイリングする形式とする。

⑥ 学期末には児童生徒が「おたより帳」「スケジュール帳」の取組についてどのように評価しているのかをアンケートを実施し、見とる。

9年生

5年生

「手段・方法」に関する質問

指導して、作法を身に付けさせる。

「目的・ねらい」に関する質問

作法を身に付ければ、学力が上がる。

⑦ ④を分析した結果を夏休みや冬休みの期間を利用し、校内研修を行う。各学年の取組の工夫やアイデアをもちより、PDCAサイクルを回す。

活動の成果：

① 1～9年生まで校時表がそろったことで「おたより帳」「スケジュール帳」に取り組む時間が児童生徒、教員ともに明確になった。

② 児童生徒のアンケート結果(R元年度7月実施)を見ると、とりわけ課題であった9年生は「『スケジュール帳』により昨年度より計画的に学習できるようになった」「昨年度より家庭学習の時間が増えた」また「忘れ物が減った」と感じている。

③ 9年生のアンケート結果(R元年度7月実施)を見ると、「スケジュール帳」の活用度が高い生徒ほど、生活習慣や学習習慣が改善されたと感じている。

※次回は各テストの結果と「おたより帳」「スケジュール帳」の活用度のクロス集計を図りたい

「スケジュール帳」により昨年度より計画的に学習できるようになった。

7年生

8年生

9年生

R元年度 9年生 7月 スケジュール帳活用度と生活に関する自己評価についての散布図